

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100011		
法人名	株式会社マル若商店		
事業所名	グループホームホープ		
所在地	多治見市希望ヶ丘2-3		
自己評価作成日	令和4年1月26日	評価結果市町村受理日	令和4年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100011-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100011-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で、外出の機会は減ったものの、利用者様の食べたいもの(刺身等)での食事会の実施、季節の行事に添った小物を手作りしたり、トマト・キュウリなどの野菜を育てて、食卓で味わったりもした。また花を育てたり、地元のどんと焼き祭りに参加した。四季折々を感じながら、色んな事に楽しみを見出している。また利用者様の誕生日には職員より手作りの色紙を渡して、毎回喜んでいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の介護事業として、小規模多機能ホームや複数のサービス付高齢者住宅、3件のグループホームを運営しており、施設長が他のホームとも連携しながら、職員と共に質の高い支援の提供に取り組んでいる。職員は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、家族との交流もできない利用者の思いに寄り添い、地域の行事や歴史などについて尋ねながら、思い出話を聞くなど、利用者が毎日を笑顔で過ごせるよう工夫している。現在、職員不足ではあるが、少ない人数でも、利用者の今の生活を一日でも長く継続できるよう、リハビリやレクリエーションなどを工夫しながら、支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族や地域との関係を断つことなく一人一人のご利用者様に合わせたサービスの提供が行えるように常に管理者と職員が連絡取り合い、より良い方法を模索した。	運営理念と共に、グループホームのケア理念を共有し実践につなげている。職員は、利用者一人ひとりの状態を把握し、目標達成に向けて、適切な支援を行っている。申し送り、朝礼などで支援を振り返り、職員間で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の町内会長へ運営推進会議への参加の働きかけを行っている。集会場の清掃、どんど焼き等行事にも参加した。運営推進会議を行い民生委員・地域包括・提携病院のナースに参加して頂き、情報交換が出来た。	昨年末、運営推進会議に地域関係者の参加を得ることができている。自治会員としての役割りを担い、感染予防対策をした上で、近隣の清掃活動や地域行事のどんど焼き行事等に参加している。収束後には、利用者と共に地域との交流を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際には、認知症の理解の機会とし、町内会またはご近所にも参加を呼びかけた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災事の避難経路について、市役所より助言を受け、避難の方法等を決め、職員が誰でも実行出来るようにチェックリストにまとめた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課の担当者から提案を頂き、虐待についてアンケートを取り、それを元に出た結果を職員と共有、話し合いを持ち、また結果を運営推進会議で報告出来た。	運営推進会議は書面開催とし、議事録を関係者に送付している。1月には対面での運営推進会議を実施し、活動状況や職員研修、また、利用者の状況を説明しながら、ヒヤリハットや事故防止、身体拘束廃止についても意見交換している。感染対策や防災訓練についても詳細な報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、実際の利用者に行い、実際の利用者に当てはめて、柵などが必要かの意見交換をし、拘束しないで済む方法を検討・実践した。衝撃吸収マットを購入し、ベッドを一番下に下げる事を徹底し、柵の使用を検討し、拘束なしでの対応を実践した。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催している。全職員を対象に身体拘束の必要性や拘束の弊害について話し合うなど、勉強会を重ねている。虐待についてもアンケート調査などを行っている。施錠を含めて、利用者の安全を守る為の対応方法を検討し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会を行い、身体拘束廃止委員会を定期的に開催している。議事録は、運営推進会議議事録と同様に、参加者や会議内での意見交換の内容を詳細に記録することで、更なる意識向上につながると思われる。今後も拘束のないケアの継続に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を学び、職員が気になった事を管理者に報告し、当事者と意見を交わす事で、指導と防止に努めた。虐待チェックリストをとる事で、自らを見つめ直す機会となり、改善がみられた。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	引き続き、必要に応じて社協と協議し、適正かつ継続的な援助を受けられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望者様にはご家族や利用者様本人に施設内を見学して頂き、契約書・重要事項説明書・運営規定など詳しく内容を説明し、理解・納得を得た後、契約を締結している。また不明な点は、随時説明出来るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	令和3年12月に運営推進会議に、ご家族を招き、ご意見を頂いた。さらに市役所からの提案と一緒に促進する事で施設運営に反映させている。	かかりつけ医への同行時や、家族が必要な物を届ける来所時には、意見や要望を聞き、看護師である職員が、利用者の健康状態を報告している。行事予定やホームでの暮らしぶりが分かる写真入りのホープだよりは毎月送付しており、家族に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で出た意見と申し送りノートに書かれた意見も、すぐ出来る事は実行している。提案をスタッフに投げかけ、意見を募り、介護に活かしている。	管理者も現場に入り、職員の要望や相談を受けながら、対応している。組織的に検討が必要な課題については、施設長が法人の会議にあげている。現在、職員不足のため、管理者及び職員同士が協力し合い、利用者の状況や情報を共有しながら、支援に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個人面談を適時行い、個人の心境を話してもらう事で、就業環境の整備に努めた。また給与改善について上司に提案して実現した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で対面での研修の参加が困難な為、書籍をスタッフ間で回し読みし、スキルアップに繋げた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月にたじみサービスネットワーク会議(現在リモート対応)に出席して得た情報をスタッフ間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から、出来る限りの情報をお聞きし入居への経緯や入居者様のおかれた立場などを、医療社会面からよく理解したうえで、本人の立場に立ち安心して頂ける環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人・ご家族の要望を良く聞き、困っている課題を見極めながら、ご本人らしく過ごして頂けるように努力をしている。その経過をご家族に報告する事もできた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の希望を第一にお聞きし、ご家族と相談しながら、必要なサービスの提供をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症であっても、「介護される」という一方的な関係性でなく、「共に暮らす一員」という立場で、信頼関係を築く努力をしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の影響で面会は困難であるが、お便り・メール・電話などで状況をお知らせし、アドバイスを頂き、連絡取り合い、ご家族とのサービスに繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、以前のように関わりを持てなかった。しかし、テレビ電話などリモート対応で、利用者様のお顔を見ながら会話が出来た。	新型コロナウイルス感染予防対策の為、現在、面会を制限している。家族や親戚とは、テレビ電話やリモートでの面会を実施している。テレビ電話での面会時に、利用者が孫の名前を憶えていて、名前を呼ぶなど、利用者の笑顔見ることができている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席順は特に気を付けて、利用者様が孤立や対立しないように職員が関係作りに努めている。利用者様同士が、自然に仲良く明るく楽しい生活が送れるように支援している。また都度見直しも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設などへ転居された時には、必要な情報を提供して、利用者様やご家族が混乱しないように努めている。入院された折には、お見舞いに行くなど関係を断ち切らない関係につとめている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で、ご本人や他の利用者様とうまく折り合いが保てるように、スタッフが間に入り、快適に過ごして頂けるように努めている。	利用者の「選択」と「自己決定」を優先し、その人のありのままを受け入れる支援が事業所の方針である。常に利用者に寄り添いながら、気が付いたことがあれば、さり気なく希望を聞き、思いが実現できるよう支援につなげている。新たに知り得た情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から、利用者様の生活歴・暮らし方・生活環境など、詳しく聞き取り、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活リズムを把握した上で、本人とのコミュニケーションを通して情報収集をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、利用者様全員のケース・カンファレンスを検討している。医師や看護師の意見を参考にし、利用者様やご家族の希望を介護計画に反映し支援に努めている。	介護計画の作成時には、事前に家族の意見を書面にて把握し、面談でも聞いた上で計画案作りを行っている。職員全体で意見を交わし、医師、看護師等の専門職の意見も参考に、計画を作成している。作成後、家族に報告し、要望を聞きながら見直しも行っている。	介護計画は、家族の希望や要望を聞き計画に組み入れることが大切である。新型コロナ収束後には、家族と日程調整を行いながら、サービス担当者会議を開催し、家族と共に意見交換しながらの介護計画作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが気づいた点は、申し送りノートに記入し、それに基づき会議で検討し、ケアサービスの統一を実施している。さらに状況の変化に伴い、常に見直しも実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の通院介助や付き添いの支援を実施している。医療連携体制をとって、看護師による健康のチェックや相談も実施し、緊急時対応で、連絡し、かけつける体制もとっている。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により、地域資源の訪問は、企画のみで実現出来なかった。民生委員様より、地域の集まりへの参加の提案を受け、検討するが、実現出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を家族同伴で受診する際は、利用者様の健康状況を説明した文書を渡している。協力医療期間の受診は月に一度ある。ほとんどの利用者様が協力医療期間を希望されている。	契約時に、かかりつけ医についての説明をし理解を得ている。かかりつけ医への受診は、家族同行を基本としているが、現在、ほとんどの利用者が、協力医に変更し、月1回の往診を受けている。また、看護師が、日々、利用者の健康管理を行い、従前のかかりつけ医への受診時には、情報提供票を家族に渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康相談や健康管理を実施し、介護職からの情報により、身体的及び精神的ケアを行う。また異常の早期発見による対応により、悪化を防ぐように努めている。かかりつけ医の受診や入院措置等迅速な対応を図っている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族の同意を得て利用者様が入院した際は、看護師が立ち合い、ご家族の良き相談相手となっている。また病院関係者と相談し、早期退院に向け支援を実施している。また病院の相談員との関係を築き、情報の収集を行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合における医療体制指針を説明し、承諾を受けている。随時、主治医とご家族との今後の方向性を話し合い、グループホームでの生活を考えて頂く場を持っている。	重度化や終末期の対応についての指針を利用者・家族に説明し同意を得ている。利用者の状態変化時には、早い段階で医師を含めた関係者と家族が話し合い、事業所でできることを説明し方針を共有している。終末期については、家族の希望を受け入れ、検討しながら支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を各階に貼りだし、迅速な対応が出来るようにしている。また消防署の協力を得て救急救命法やAEDの研修を実施し、緊急時に対応できる体制に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	所内会議で、災害時は高齢者対策として、施設内での待機とし、その場での生活の維持、地域との住民との連携出来る体制の準備をした。地域住民が避難される事も想定にいれ、施設へ受け入れ等、相互扶助で協力体制も検討した。	夜間想定を含め、年2回の災害訓練を実施している。訓練後には、運営推進会議で報告し、助言を得ている。水害や地震についても話し合い、地域住民の受け入れについても意見交換を行っている。備蓄の点検、補充を定期的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を否定するような声掛けを聞いた場合、すぐ管理者に報告して、当事者との意見交換を実施して再発防止に努めている。個人のプライバシーの侵害が虐待につながる事を学び、適正な声掛けをするように心がけた。	プライバシーの確保については、年間学習計画に組み入れている。利用者は、地域に貢献してきた人生の先輩であり、声かけや会話の際の言葉遣いには気を付けるよう心がけている。入浴や排泄支援では、羞恥心に配慮し、誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や要望を尊重して、自己決定しやすい声掛けを心がけ、実行した。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められない利用者様にも、提案助言によって、自己決定して頂けた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴から本人の個性をいかした身だしなみやおしゃれのアドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人が食事を楽しめるよう利用者様にあった形態で提供する。また誕生日や各行事にあったお菓子等を手作りにて提供したり、お正月には利用者様の要望で刺身を提供して、皆さんに喜んでいただけた。	調理専門のスタッフが、三食共手作りし職員も同じ食事を食べている。ホームで育てたトマトやきゅうり等、旬の食材を使いながら、利用者の状態に合わせた形態で提供している。普段は難しいが、お正月には、利用者の希望が多かった「刺身」を提供した際には、大変喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、不足分(水分・栄養)を経口補水液、栄養補助食品等で適宜補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを施行している。また部分義歯が合わなくなった利用者様は歯科にて点検治療をしている。また口腔ケアの習慣のなかった利用者様も1日3回施行するようになった。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、排泄パターンを把握している。尿意があまりない利用者様も表を利用して早めのトイレ誘導を心がけている。目の不自由な方は起床時、布団の鈴がなるようセットした事で、トイレの排泄をスムーズに行えた。	トイレでの排泄が習慣になるよう、排泄チェック表を参考に早めに声かけをし、トイレ誘導を行っている。失敗を減らすことで、利用者の自信と共に、排泄用品の軽減にも繋がっている。また、職員の工夫により、目の不自由な利用者も、安全にトイレでの排泄が行えるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて利用者様の状況を把握している。便秘対応を個々に決めて看護師の指示により便秘解消に努めている。排便状況での時間、下剤の再検討で適切な排便ケアができた。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度の利用者様の対応できる風呂用昇降椅子を導入し、いままでシャワー浴だった方、目の不自由な方も浴槽に浸かって喜ばれた。	入浴は週2回であるが、利用者の希望を聞きながら、柔軟に対応している。風呂用昇降椅子の導入により、個浴が難しい人や障害がある利用者も安心、安全に入浴ができるようになり、職員の身体的負担の軽減にもつながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の体調に合わせ、休息をとっていただくようにしている。日中と夜間のリズムをつけて安眠につなげるように心がけたり、話し相手となり安心して頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は医療ファイルを確認して、全スタッフが把握できるシステムにしている。服薬時には日付・氏名・時間・錠数等、確実に口腔内に入った事を確認して、ミスの防止を徹底している。また服薬済の空箱を使用して、二重チェックを実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材のもやしの芽取りなどは、出来る方全員でしてもらっている。食事の前後のテーブル拭きも利用者様をお願いしている。時々、ぜんざいを豆から煮て利用者様に喜ばれている。またデザート盛り付け、リズム体操も実施し、参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換、体力向上の為、近所を散歩し、地元住民の方との触れ合いを持っていただいている。またどんと焼き等町内の行事に参加している。	感染予防対策の為、毎年、実施していた外出支援を中止している。ホームが住宅街にある事で、子どもたちの声がよく聞こえ、窓から手を振り合っている。また、天候や利用者の状態をみながら、感染予防をした上で、近隣を散歩したり、町内の行事に参加するなど、利用者の気分転換を図っている。	



岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にお預かりしているお小遣いの中から、パジャマや身の回りの必要な品をスタッフと一緒に買い物をする機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話で通話している事と毎月、絵手紙をご家族に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気の灯は、その時の精神状況に合わせて変えている。壁面に季節折々の絵や小物等を貼り、季節感を楽しんでいただいている。クリスマスツリーなども利用者様とスタッフと一緒に手作りで作った。正月には書初めもおこなった。	昨年度に続き、今年度も感染予防対策の為、写真等での確認となった。リビングにある大きな洗面台の鏡からも、利用者の様子が分かる。利用者はソファで寛いだり、テーブルで習字や作品作りなどの手作業を楽しんでいる。利用者職員が共に作り上げた季節の作品等も飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに大きなソファを置き、自由に会話ができるようにしている。また1階と2階の行き来することで、気分転換をはかってもらう。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者様にとって、馴染みの家具やものが有れば、居室に配置できる工夫をしている。またご家族様の写真等、置かれる方もあり、その人らしい「自分の家」になるような空間づくりを支援している。	共用スペース同様、写真での確認となった。電動式のベッドが設置され、使い慣れた家具や小物を並べ、利用者個々に好みの部屋作りをしている。家族の写真や職員から送られた誕生日を祝う色紙などを飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新施設では、洗面台が上下可動式になり、また浴室の手摺りが導入された事により、利用者様が自力で移動したり利用したりできる範囲が広がった。そのため、見守りも十分必要である。		